【企業】
同種工事：下記⑺～⑴の要件を満たすＮＡＴＭ工法によるトンネル工事の施工実績を有すること。ただし、下記⑺～⑴は同一工事かつ同一トンネルであることとし、施工延長については掘削および覆工を実施した区間の延長であること。
⑺　トンネル内空断面積（覆工後の内空面積（代表値））が50㎡以上であること。
⑴　トンネル施工延長が200ｍ以上（片押し連続施工）であること。
【技術者】
同種工事：ＮＡＴＭ工法（覆工コンクリートの施工含む）によるトンネル工事の施工実績を有すること。
⑹　技術提案（以下「技術提案書」という）が発注者の設定している標準案と同等以上であること。
ただし、新技術導入促進（Ⅱ）型に関する技術提案（技術提案書（新技術現場実証））は除く。
⑺　次に掲げる基準を満たす監理技術者又は主任技術者を当該工事に専任で配置できること。
なお、本工事において申請できる技術者は１名とする。（入札公告１工事概要で記載した複数の工事に参加を希望する場合でも申請できる技術者は１名のみとし、２名以上申請した場合は、欠格とする。）
①　監理技術者又は主任技術者を配置する場合は、１級土木施工管理技士又はこれと同等以上の資格を有する者であること。
②　上記⑸に掲げる工事の経験を有する者であること（ただし、配置する技術者が平成18年度以降に産前産後休暇及び育児休暇を取得している場合、その期間に相当する日数を実績評価期間以前に加えることができる。）（品質証明員、土木工事品質確認技術者としての経験は除く。）（共同企業体の構成員としての経験は、出資比率が20％以上の場合に限る（乙型にあっては分担工事の実績に限るものとし、出資比率は問わない。）。）。
「海外インフラプロジェクト技術者認定・表彰制度」により認定された海外実績も国内の実績と同様に評価する。なお、入札説明書に示すものに係る実績である場合にあっては、評定点合計が入札説明書に示す点数未満であるものを除く。
③　当該工事を受注した場合において、監理技術者が必要となる工事にあっては、配置予定技術者が監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了証を有する者であること。
⑻　競争参加資格確認申請書及び技術資料（競争参加資格確認資料）（以下「申請書等」という。）の提出期限の日から開札の時までの期間に、中部地方整備局から工事請負契約に係る指名停止等の措置要領（昭和59年３月29日付け建設省厚第91号）に基づく指名停止を受けていないこと。
⑼　上記１⑵に示した工事に係る設計業務等の受託者又は当該受託者と資本もしくは人事面において関連がある建設業者でないこと。
⑽　入札に参加しようとする者の間に資本関係又は人的関係がないこと。
⑾　警察当局から、暴力団員が実質的に経営を支配する建設業者又はこれに準ずるものとして、国土交通省発注工事等からの排除要請があり、当該状態が継続している者でないこと。
⑿　上記１⑵に示す工事のうち、複数の工事に特定建設工事共同企業体としての資格を申請する場合、構成員の組合せ及び代表者は、同一でなければならない。また、いずれかの工事に特定建設工事共同企業体として入札に参加する場合、その構成員は、いずれの工事にも単体有資格業者として入札に参加することはできない。
３　総合評価落札方式に関する事項
⑴　総合評価落札方式の仕組み　本工事の総合評価落札方式は以下の方法により落札者を決定する方式とする。
①　提出された申請書等により、下記１）に示す一次審査を実施し、一次選抜者以外の競争参加者による入札を無効とする。また、国内実績のない外国籍企業が国外での施工実績により参加する場合、中部地方整備局入札契約手続運営委員会における審査の結果、上記２⑸の同種工事の施工実績として妥当と判断された場合、一次選抜者に追加する。
②　一次選抜者及び上記３⑴①により追加された者によって提出された技術提案書により、下記２）に示す二次審査を実施する。
③　当該工事について、入札説明書に記載された要求要件を実現できると認められる場合には、標準点100点を付与する。
④　下記２）⑴の技術提案書により最大60点の加算点を与える。
⑤　下記２）⑺の評価項目について、入札説明書で定めるところにより施工体制評価点を最大30点与える。
⑥　標準点、施工体制評価点及び二次審査の結果により付与された加算点の合計を当該入札者の入札価格で除して算出した値（以下「評価値」という。）を用いて落札者を決定する。
その概要を以下に示すが、具体的な技術的要件及び入札の評価に関する基準等については、入札説明書において明記している。
１）一次審査における評価項目と審査項目
一次審査の評価及び審査項目は、以下の項目⑺から⑴のとおりである。
⑺　技術者の能力に関する事項
⑴　企業の能力に関する事項
※最大40点の審査評価点とする。
２）二次審査における施工体制評価点及び加算点評価項目と審査項目　二次審査の評価及び審査項目は、以下の項目⑺から⑴のとおりであり、技術提案書を提出した者を対象に実施する。ただし、一次選抜者及び上記３⑴①により追加された者以外の競争参加資格者による技術提案については評価を行わない。
⑺　施工体制（品質確保の実効性・施工体制確保の確実性）
⑴　性能等の評価に関する事項
(i)　工事目的物の性能・機能（耐久性）の技術提案に関する事項
・「狭隘空間である覆工コンクリートにおける充填性向上対策」について
(ii)　工事目的物の性能・機能（耐久性）の技術提案（新技術導入促進（Ⅱ）型に関する技術提案）に関する事項
・「ＤＸ技術等を活用したトンネル（ＮＡＴＭ）の計測管理の効率化手法」について
※⑺の項目で最大30点、⑴の項目で最大60点の加算点とする。
⑵　落札者の決定　入札参加者は価格をもって入札する。標準点に施工体制評価点及び加算点を加えた点数をその入札価格で除して評価値（評価値＝{(標準点＋施工体制評価点＋加算点）／（入札価格)}）を算出する。なお、次の条件を満たした者のうち、算出した評価値が最も高い者を落札者とする。
①　入札価格が予定価格の制限範囲内であること。
②　提案が最低限の要求要件（標準案）同等程度の内容を含みそれ以上であること。
③　評価値が標準点（100点）を予定価格で除した数値（基準評価値）に対して下回らないこと。
４　入札手続等
⑴　担当部局　〒460―8514 愛知県名古屋市中区三の丸二丁目５番１号名古屋合同庁舎第二号館　中部地方整備局総務部契約課契約第一係　電話052―953―8138（直通）　メールアドレスcbr-keiyaku@mlit.go.jp
⑵　入札説明書等の交付期間、場所及び方法
入札参加希望者には、「電子入札システム」により入札説明書等を交付する。
入札説明書等の交付期間：別表１①のとおり。但し、やむを得ない事情で「電子入札システム」による交付を受けることができない場合は、上記⑴の担当部局まで連絡し、指示に従うこと。
⑶　申請書等の提出期間、場所及び方法　入札説明書に示す様式及び留意事項に基づき作成し、電子入札システムを用いて提出すること。ただし、紙入札方式の場合は電子メールで提出すること。
電子入札システムによる受付期間：別表１②のとおり。
申請書等のファイル容量が、10ＭＢを超える場合の提出方法等については、入札説明書による。
紙入札方式の場合の受付期間：上記電子入札システムによる受付期間と同じ
提出場所：上記⑴に同じ。